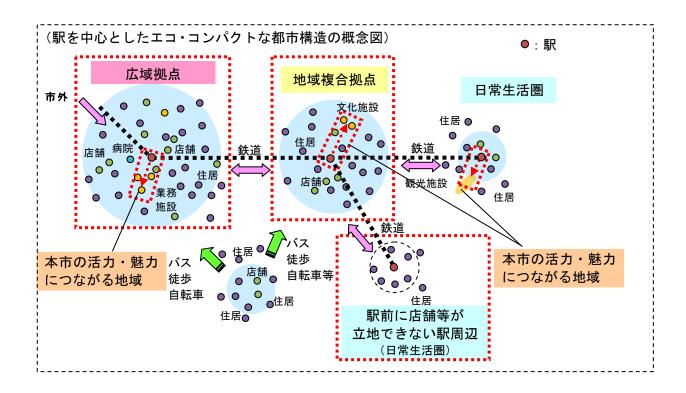
1 前回(第2回)の検討概要

○ 京都市における駅を中心としたエコ・コンパクトな都市構造について

都市の活力や魅力を高める視点 市民の暮らしを支える視点 ①広域的な商業機能が集積する駅周辺地域(広域拠点) 商業機能などの多様な都市機能が高度に集積し、京 本市の活力・魅力につながる拠点 都を代表するにぎわいと魅力を有する駅周辺地域 周辺の地域(魅力づくり拠点) (都心部, 京都駅周辺) 本市の活力を高め、都市の魅力に ②地域の核となる利便性の高い都市機能が集積する駅周 つながる拠点周辺の地域 辺地域(地域複合拠点) ・にぎわい 公共機能や店舗等の商業機能などの利便性の高い都 ものづくり 市機能が集積する、地域の核となる駅周辺地域 観光・サービス ③徒歩圏内の日常生活を支える地域(日常生活圏) ·大学 · 研究機関等 • 文化 • 交流 徒歩圏内に生活必需品が揃う利便施設が立地してお り、日常生活を支える地域



2 今回特に御議論いただきたい内容等

- 〇 地域複合拠点の抽出について
 - ・地域複合拠点の検討に当たり、近接する駅間についてどのように整理を図るべきか。
 - 乗降客数が2万人以上の駅を中心として、地域複合拠点となる駅をどのように抽出するべきか。
 - 事務局候補案以外に検討対象とすべき駅の有無について
- 広域拠点の駅周辺について(都心部及び京都駅周辺)
- 駅前に店舗等が立地できない駅周辺について(日常生活圏)
- 本市の活力・魅力を生み出す拠点周辺の駅について



第4回の御議論に 向けた整理